

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和5年度 11 月号

#### ○ 概要

- (1) 令和5年度 11 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,753 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.5%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,189 円（伸び率▲1.8%）であった。（→P.1,2）  
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,866 億円（伸び率+4.9%）、薬剤料が 4,874 億円（伸び率+2.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 961 億円（伸び率+3.0%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,190 円（伸び率▲3.8%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、1 種類当たり投薬日数、1 種類 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.81 種類（伸び率+0.4%）、26.5 日（伸び率▲3.0%）、70 円（伸び率▲1.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料 3,814 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+51 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の 726 億円（伸び幅+44 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の +44 億円（総額 726 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,814 億円 (+51 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(726 億円)	21 循環器官用薬 (551 億円)	11 中枢神経系用薬 (536 億円)
0 歳以上 5 歳未満	21.4 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (6.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.8 億円)	61 抗生物質製剤 (3.0 億円)
5 歳以上 15 歳未満	108.5 億円 (+24.3 億円)	44 アレルギー用薬 (32.6 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.1 億円)	62 化学療法剤 (13.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,427 億円 (+57 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(274 億円)	11 中枢神経系用薬 (271 億円)	42 腫瘍用薬 (168 億円)
65 歳以上 75 歳未満	810 億円 (▲49 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(186 億円)	42 腫瘍用薬 (143 億円)	21 循環器官用薬 (134 億円)
75 歳以上	1,447 億円 (+17 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(257 億円)	21 循環器官用薬 (248 億円)	42 腫瘍用薬 (195 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,189 円（伸び率▲1.8%）で、最も高かったのは高知県（10,948 円（伸び率▲3.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,872 円（伸び率+0.1%））であった。  
また、伸び率が最も高かったのは島根県（伸び率+0.7%）、最も低かったのは北海道（伸び率▲3.4%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	85.0 %	+1.5 %
薬剤料ベース	19.7 %	+0.0 %
後発品調剤率	81.3 %	+1.3 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.3 %	+1.1 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.0 %	+28.8 % (10歳以上 15歳未満)	▲7.9 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	30.1 % (100歳以上)	11.6 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	85.0 %	89.1 % (100歳以上)	80.9 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	818 億円 (+24 億円)	21 循環器官用薬 (251 億円)	11 中枢神経系用薬 (142 億円)	23 消化器官用薬 (97 億円)
0歳以上 5歳未満	7.7 億円 (▲0.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	62 化学療法剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	19.6 億円 (+3.9 億円)	44 アレルギー用薬 (9.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15歳以上 65歳未満	288 億円 (+18 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (66 億円)	44 アレルギー用薬 (30 億円)
65歳以上 75歳未満	172 億円 (▲7 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75歳以上	331 億円 (+11 億円)	21 循環器官用薬 (115 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,307 円	1,666 円(北海道)	1,104 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.2%	▲0.0 % (新潟県)	▲3.6 % (鳥取県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	85.0 %	91.0 % (沖縄県)	81.2 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.7 %	22.6 % (鹿児島県)	17.4 % (京都府)
後発医薬品調剤率	81.3 %	86.1 % (沖縄県)	77.2 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.3 %	67.5 % (沖縄県)	56.6 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度11月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。